SUSTAINABLE CULTURAL FUTURES
SCF
COVID-19 AND RESETTING CULTURAL POLICY

Doshisha University

持続可能な文化の将来―コロナウィルスと文化政策の再構築
日英国際オンラインセミナー シリーズ　第3回

文化セクターで働く人々と労働 - 文化政策の対応と課題
―日英両国における調査結果から　シグリッド・ロイセン氏　を迎えて―

2020年初めより世界中を襲った新型コロナウィルス感染症により、もっとも大きな影響を受けた産業セクターの１つに文化芸術関係があります。公演や展示の中止、文化施設の閉館といった未曽有の危機に直面し、各国の文化政策もこれまでにない対応を迫られることとなりました。文化芸術の分野は大きな影響を受けてきました。公演や展示の中止、文化施設の閉館といった未曽有の危機に直面し、各国の文化政策はこれまでにない対応を迫られることとなりました。この危機的な状況は現在進行形ではありますが、そのような最中の今こそ、文化政策の新たなあり方を模索しなければならないと思われます。

従来、文化政策というものに消極的ではありながら、アームズレングスによる助成の仕組み、文化の経済的・社会的価値、クリエイティブ産業政策などの点から世界の文化政策をリードしてきたともいえる英国と、やはり文化予算が豊富とはいえないものの、昨今は特に地方創生、文化観光など他の政策領域と結びつき拡張しつつある日本を比較し、文化政策と持続可能な文化の将来を考えていくことが本プロジェクトの目的です。

プロジェクト初年度は「文化政策、文化の価値に関する両国民の意識と文化鑑賞行動の実態」をテーマとして、両国でウェブ調査を実施しました。

プロジェクト２年度は、文化政策にとって最も大きな問題となった文化関係の労働の問題を取り上げます。世界各国において、文化セクターで働く人々の賃金の相対的低さ、労働条件や社会保障の面でも恵まれない立場であることが問題視されてきましたが、これが2020年からのパンデミックで浮き彫りにされました。今回のセミナーでは、日英両国における政策的対応と今後について行ったヒアリング調査の報告を中心に行い、国際文化政策研究会議の学術委員会議チェアを務めるノルウェーのシグリッド・ロイセン氏からコメントを頂戴します。

本セミナーは、学術関係者のみならず、広く文化行政、文化の現場に携わる実務者たちにも向けて企画されています。90分とコンパクトな設定で日英同時通訳付きですので、ぜひお気軽にご参加下さい。

日　付： 2023年11月9日（木）
時　間： 19:00 - 20:30
形　式： オンラインZOOMウェビナー
参加費： 無料
申込方法： 11月7日（火）までに下記のリンク、もしくはQRコードからお申込みください。
参加用URLをお送りいたします。

https://forms.gle/1WVZbeGaEFYXBUc57

プログラム：

19:00-19:05	主催者開会挨拶	
19:05-19:25	報告１	「文化セクターで働くフリーランスの雇用不安とそれに取り組む政策的アプローチ ― 英国の事例から」 （キングスカレッジロンドン Sana Kim）
19:25-19:35	報告２	「日本の文化芸術分野フリーランスの不安定さに関する現場からの声」 （上野学園大学 准教授佐野　直哉）
19:35-19:45	報告3	「コロナ禍の日本の文化政策 」 （芸術文化観光専門職大学 講師 小林　瑠音）
19:45-20:00	調査結果へのコメント （国際文化政策研究会議学術委員会議チェア　Sigrid Røyseng）	
20:00-20:25	質疑応答、議論	
20:25-20:30	閉会	

持続可能な文化の将来―コロナウィルスと文化政策の再構築
日英国際オンラインセミナー シリーズ　第3回

文化セクターで働く人々と労働 - 文化政策の対応と課題
―日英両国における調査結果から　シグリッド・ロイセン氏　を迎えて―

登壇者プロフィール

河島　伸子（同志社大学　経済学部　教授）

本研究プロジェクトリーダー。PhD（文化政策学、英国ウォーリック大学）
専門は文化経済学、文化政策論、アートマネジメント論、コンテンツ産業論など
主書に『コンテンツ産業論第２版』、共著に『新時代のミュージアム』『変貌する日本のコンテンツ産業』『イギリス映画と文化政策』『グローバル化する文化政策』『文化政策学』『アーツマネジメント』Film Policy in a Globalized Cultural Economy (with John Hill [eds], Routledge, 2017)、Asian Cultural Flows (with Hye-Kyung Lee [eds], Springer, 2018)など。
文化審議会委員、同文化政策部会部会長、同無形文化遺産部会委員他を務める。

Sana Kim（キングスカレッジロンドン）

キングスカレッジロンドンの文化・メディア・クリエイティブ産業学科の博士研究員。クリエイティブ産業・経済という広い視野の中で、文化政策、クリエイティブワーク、クリエイティブエコロジー・生態系に関心を持つ。1997年にカザフスタンで行われた首都移転が、その後のカザフスタンの新首都（アスタナ）と旧首都（アルマティ）の創造的発展に与えた影響について、博士課程で研究している。博士号取得後、DISCE（Developing Inclusive & Sustainable Creative Economies）と題するEUの共同プロジェクトに参加し、ヨーロッパ全体の創造的経済の成長を向上させるための研究を行った。

佐野　直哉（上野学園大学　音楽学部　准教授）

英国ロイヤルカレッジオブミュージック演奏学修士M.Mus(RCM)を経て、東京藝術大学大学院音楽研究科（芸術環境創造分野）博士後期課程修了。博士（学術）。エンタテイメント系会社にて洋画宣伝・洋楽ライセンス契約業務に従事したのち、ブリティッシュ・カウンシル、駐日英国大使館、国連世界食糧計画にてマーケティング、資金調達、パブリックディプロマシー／国家ブランディング戦略に携わった。アーツカウンシルしずおかプログラムコーディネーターを経て、現職。専門はマーケティングと評価を中心としたアートマネジメント。

小林　瑠音（芸術文化観光専門職大学　講師）

ウォーリック大学大学院ヨーロッパ文化政策・マネジメント修士課程修了（MA）。神戸大学大学院国際文化学研究科博士課程修了。博士（学術）。京都芸術大学大学院グローバルゼミ・プログラムオフィサー、奈良県立大学非常勤講師、神戸大学国際文化学研究推進センター学術研究員等を経て現職。専門は英国文化政策、アーツカウンシル史。主著に『英国のコミュニティ・アートとアーツカウンシル：タンポポとバラの攻防』（2023年、水曜社）。

Sigrid Røyseng　（国際文化政策研究会議の学術委員会議チェア）

ノルウェー音楽アカデミー・文化社会学教授
BIノルウェービジネススクール・アートマネジメント教授
文化政策、文化的起業家精神、リーダーシップや社会における芸術家の役割についての書籍や論説を多数執筆している。現在、国際文化政策学会学術委員会のチェア、ならびにJournal of Empirical Research on Culture , the Media and the Arts, International Journal of Cultural Policy and Norwegian Journal of Sociologyの編集委員を務めている。2023年には、ノルウェー政府より、自国の音楽分野についての調査や提言を行う専門家グループのリーダーに任命された。また、音楽アカデミーでは博士課程委員会の議長ならびにアートマネジメントのエグゼクティブ・プログラムのヘッド務め、BIビジネススクールに於いてはExecutive Master of Management programs in leadershipの指導を行っている。

＊本セミナーは、日本学術振興会「国際共同研究事業　英国との国際共同研究プログラム（JRP-LEAD with UKRI）に採択され日英のチームで進めている国際共同研究プロジェクト「持続可能な文化の将来―コロナウィルスと文化政策の再構築」（2021年12月～2024年11月）JPJSJRP20211707の成果の一部をご紹介するものです。

お問い合わせ先：同志社大学
創造経済研究センター事務局
TEL：075-251-3728
E-mail：rc-csce@mail.doshisha.ac.jp